

音楽との豊かなかかわりを求め続ける子どもの育成

濱 田 宏 明〔鹿児島大学教育学部附属小学校〕

Promotion of the Child who Keeps Requesting Rich Relations with Music

HAMADA Hiroaki

キーワード：音楽科、小学校、教育、かかわり、指導法

I はじめに

これまでに本校音楽科では、音楽へのあこがれをもち、こだわって取り組む子どもを目指し、研究を進めてきた。その中で、自ら学ぶ意欲を高める子どもの姿を探るとともに、このような姿が見られるようにするための学習内容や指導の方法の見直しを行った。この研究の成果として、イメージと音楽を形づくっている要素を基にして鑑賞したりする子どもの姿が見られるようになった。

また、学習指導要領改訂に伴い新設された〔共通事項〕を核とした題材設定もおこなった。

しかし、一方で、学習経験が授業の中だけで終わってしまい、中には、「音楽は生活に特に必要のないものだ」という考えをもつ子どもも少なくからずいることから、音楽と生活・社会とのかかわりに関心がもてず、生活・社会に生かそうとする姿が十分に見られないという課題もある。

そこで、これらの成果と課題を踏まえ、音楽科カリキュラムの見直しを図ると共に、学習指導を改善する必要があると考えた。

II 音楽のよさや面白さ、美しさを実感する音楽科カリキュラム・音楽に対する考えの深化を図る学習指導とは

1 音楽との豊かなかかわりを求め続ける子どもを育成するカリキュラム

子どもは、音楽を知覚すると、「この音楽はすてきな」とか「だれが歌っているのだろう」などの感情を抱く。そこから、「歌詞がいいな」、「はずんだりズムが今の気分ぴったりだな」、「〇〇の時に演奏したら喜んでくれそうだな」といった思いも膨らむ。さらに、「歌えるようになりたいな」とか「家でCDを聴いてみたい」、「〇

〇の時に演奏してみよう」などといった意思が生まれる。そして、表現したり鑑賞したりすることを通して、音楽を生活や社会とかかわらせていくと考える。

このように、様々な音楽に対して、自らの意思や価値観をもって音楽とかかわることを「音楽との豊かなかかわり」ととらえた。さらに、音楽が自分の生活や社会を豊かにするものとして、多様な経験を得ようとしたり、得た経験を生かしたりし続ける子どもを「音楽との豊かなかかわりを求め続ける子ども」ととらえた。

このような子どもには、様々な音楽に関心をもち、進んで味わおうとする意欲や態度が必要である。なぜなら、音楽への関心や意欲が無かったり低かったりすると、その音楽をただ聞き流してしまっただけで、その後の音楽との豊かなかかわりは生まれにくいからである。また、音楽を形づくっている要素を基にして、イメージを膨らませたり生活や社会に生かしたりする力が必要である。なぜなら、教師からの一方的な指示では、成就感や達成感を味わうことができず、生活へ生かしていこうとする意欲もわからないからである。さらに、音楽を感受するための感覚や知識、表現するための技能も必要である。なぜなら、音楽に対する価値観を構築していくには、音楽を形づくっている要素への着目が不可欠であり、技能は音楽を表現するためには、支えとなるものだからである。

つまり、「音楽との豊かなかかわりを求め続ける子ども」とは、次のような三つの培いたい力をバランスよく身に付けた子どもであると考えられる。

音楽の関心・意欲・態度

多様な音楽を進んで味わい、生活を豊かにする

ものとして様々な活動において音楽経験を生かしていこうとする子ども

音楽のつくりかたを学ぶ力

音楽を形づくっている要素に着目してイメージを膨らませたり、音楽を生活や社会に生かすことができる子ども

感覚・技能・知識

音楽を形づくっている要素によって曲想が醸し出されていることを理解し、自分なりの思いや意図を表現したりすることができる子ども

音楽との豊かなかかわりを求め続ける子どもを育成するためには、前に述べた三つの培いたい力をバランスよく育成することが大切である。そして、このような資質・能力が、様々な経験を通して高まったり深まったりしていくためには、音楽科の学習や他教科・領域等、諸活動等、子どもの学習経験を通して音楽のよさや面白さ、美しさについて再認識したり新たに発見したりすることが大切であると考えた。

つまり、このように音楽のよさや面白さ、美しさを実感することが、音楽との豊かなかかわりを求め続けるための原動力になると考えた。

そこで、本校の実態やこれまでの研究の成果と課題、学習指導要領の改訂を踏まえ、カリキュラム創造の視点を次のように設定し、音楽のよさや面白さ、美しさを実感する音楽科カリキュラムを創造していくこととした。

視点1 他教科・領域等や諸活動との関連を図ったカリキュラムの見直し

子どもは様々な体験を通して、音楽への感じ方をより深め、表現を豊かなものにしていくことができる。そこで、他教科・領域等の内容と関連付けることにより、音楽の情景や気持ちをより豊かに感じ取ることができるようにしたり、朝の活動や諸活動と関連付けることにより、音楽表現を工夫してより広がりのある表現活動を楽しむことができるようにしたりする。そのためには、年間指導計画と他教科・領域等や諸活動との関連を明確にし、題材設定や配列を見直す必要が

ある。

視点2 生活・社会とのかかわりを意識した学習内容の設定（我が国や郷土の音楽）

目指す子ども像に迫るためには、音楽と生活・社会とのかかわりを子どもが実感することが大切である。それは、かかわりを実感することで、生活の中に音楽を取り入れたり、多様な音楽に対して自分の価値観をもったりすることができる考えたからである。

我が国や郷土の音楽は、古来より仕事や遊びといった生活の中から生まれたものが多く、生活・社会とのかかわりを実感するのに適していると考ええる。しかし、子どもたちは、「よく分からない」とか「古い」といった印象を抱いてしまい、よさや面白さ、美しさを実感するまでに至らない場合もある。そこで、我が国や郷土の音楽のよさや面白さ、美しさを実感できる学習内容を設定する。

視点3 音楽に対する考えを明確にする言語活動の充実

音楽の学習は、自分の感じ方や考え方を音や音楽で表現することが中心となる。また、合唱や合奏、グループでの音楽づくりなど集団で行う活動では、音や音楽を通して友達と伝え合い、共感する喜びを味わうことができる。

また、これらの音楽体験を通して感じ取ったことや学んだことを言葉で表すことによって、音楽に対する自分の思いや考えをより明確にしたり、整理したりすることができる。さらに、言葉で伝え合うことを通して、自分にはない友達の感じ方や考え方のよさに気付いたり、新たな思いを広げたりして、自分だけの思いを他者と共有できる思いに変えていくことにつながる。

そこで、音楽に関わる言葉を学年の発達や学習状況に応じて示し、子どもが自分から必要に応じて使えるようする環境の充実を図るとともに、それらの言葉を使いながら話し合う場を設定する等、指導方法を見直す。

2 音楽に対する考えの深化を図る音楽科学習指導

音楽を感じる場合、聴覚だけではなく、様々な

感覚を働かせながら演奏から多くのものを感じる。音楽の感じ方には個人差があり、その音楽を取り巻く文化や状況、それまでの経験等の様々な要因により感じ方は異なる。また、その感じ方を支えている、音楽を分析的にとらえるための考え方も既習経験により異なる。つまり、音楽に対する感じ方や考え方は、個人によって差があるものの、学びの中で質を向上させられるものと考えられる。また、本校音楽科では、このような感じ方や考え方により形成される価値観を「音楽に対する考え」ととらえることとした。

そして、音楽に対する考えの深化を図るために、本校研究の学びの総合化を図る学習指導の基本的な考え方を基に、カリキュラム創造の視点の中から重点を設定し、内容面・方法面における学習指導の改善を図っていく。

内容面においては、これまでの成果を生かし、「伝統や文化に関する教育の充実」を重点とし、我が国の音楽や他国の音楽のよさや面白さ、美しさを実感できる内容を組み込むとともに、音楽を取り巻く背景もとらえることができるように課題追求の過程において組み込むこととする。

また、方法面においては、思考の道筋を明確にし、感じ方や考え方の質を向上させるために、方向性を示すことができた「言語活動の充実」を重点とし、音楽科授業全体を通して充実を図っていく。ただし、学習指導要領改訂の趣旨にも挙げられているように、鑑賞の活動においては、特に言語活動の充実を図り、思考の道筋を明確にさせ、音楽のよさや面白さ、美しさを実感させる必要がある。

あわせて、これまで表現と鑑賞の一体化をねらいとして題材設定を行っていることを踏まえ、鑑賞を中心として表現と鑑賞の一体化が図られるように、聴き取ったことを基にしながら、音楽や言葉、体の動きで思いや意図を表現する活動を組み込んだ学習指導を行っていく。

さらに、豊かに感じ取り意欲をもって取り組むことができるようにするための他教科等との関連を図った導入や次の音楽学習につながる教師の働きかけ等を行う終末段階での指導についても改善を図っていく。

つまり、音楽に対する考えの深化を図る音楽科学習指導とは以下のような学習指導である。

カリキュラム創造の視点を基にしながら、音楽を形づくっている要素や音楽をとりまく背景を幅広くとらえることができるようにし、学びを生活・社会や他の音楽学習、他教科領域・諸活動につなげることができるようにする学習内容や指導方法のことである。

Ⅲ 音楽のよさや面白さ、美しさを実感する音楽科カリキュラム・音楽に対する考えの深化を図る学習指導の具体化

1 音楽のよさや面白さ、美しさを実感する音楽科カリキュラム

音楽科カリキュラムの柱となる年間指導計画における題材の配列を前項における考えを踏まえて見直しを図った。

＜第4学年の例＞

○ 視点1：他教科・領域等や諸活動との関連を図ったカリキュラムの見直し

特別活動（学校行事）との関連を図り教科の目標を達成するための教材として扱うと同時に、式の歌のもつよさや面白さ、美しさを実感できるよう題材「式の歌を歌おう」を設定した。また、全校児童が一堂に会して学習の相互発表・鑑賞の場や協同的な活動として、題材「音楽発表会をしよう」を設定した。

○ 視点2：生活・社会とのかかわりを意識した学習内容の設定（我が国や郷土の音楽）

今回学習指導要領の改訂に伴い、和楽器を含めた我が国や郷土の音楽、諸外国に伝わる民謡など生活・社会とのかかわりを感じ取りやすい音楽の鑑賞教材を設定することが示されている。そこで、郷土に伝わる「鹿兒島おはら節」を中心とした教材で構成した題材を設定した。

○ 視点3：音楽に対する考えを明確にする言語活動の充実

重点化した〔共通事項〕を基に題材を設定した。なお、授業において他の音楽を形づくっている要素についても随時取り扱う。

＜第2学年の例＞

○ 視点1：他教科・領域等や諸活動との関連を図ったカリキュラムの見直し

音楽科と生活科の関連を図った例として、第2学年の題材「うたってあそんで」において、取り扱う教材「わらべうた」を取り上げた。ここでは、音楽のよさや面白さ、美しさを生かし、幼稚園児との交流を図ったり、遊び歌として友達と遊んだりする活動の充実感から、よさや面白さ、美しさを実感することができるようにした。

＜第1学年・第6学年の例＞

○ 視点2：生活・社会とのかかわりを意識した学習内容の設定（我が国や郷土の音楽）

昨年度は、歌唱共通教材における学習内容の設定やその指導方法について研究した。これらのことを踏まえ、和楽器の使用による体験活動の充実を図ったり鑑賞と表現を一体化させたりしながら我が国や郷土の音楽のよさや面白さ、美しさを実感できるように題材を設定した。

○ 視点3：音楽に対する考えを明確にする言語活動の充実

音楽を形づくっている要素を意識して表現や鑑賞の活動ができるよう、音楽室内外の掲示や板書に使用する教具を工夫した。

2 音楽に対する考えの深化を図る音楽科学習指導

(1) 音楽に対する考えの深化を図る学習指導の構造

音楽に対する考えの深化を図る学習指導は、音楽科の授業においては、学習過程ごとに内容面・方法面から改善を図っていく。具体的には、図1のように、これまでの生活経験や生活科での経験（主に低学年）、他教科・領域等の学習内容で音楽を取り巻く背景等に直接かかわりのあるもの（中・高学年の社会科等）、学校行事等との関連を図った学習指導を進めていくことで、学びの連続・発展を実現できるようにする。

また、教科・領域等だけでなく、日常の出来事や遊びの場面等を想起させるような活動を取

り入れ、学習したことを生活・社会に活用することも意識できるようにすることで、学習内容の確実な習得や学ぶ価値の実感を図るようにする。

なお、学習内容を付加する場合は、学年の発達の段階を考慮しながら、課題追求の過程を中心に組み込んでいくようにするとともに、言語活動については、いずれの学習過程においても充実が図られるようにする。

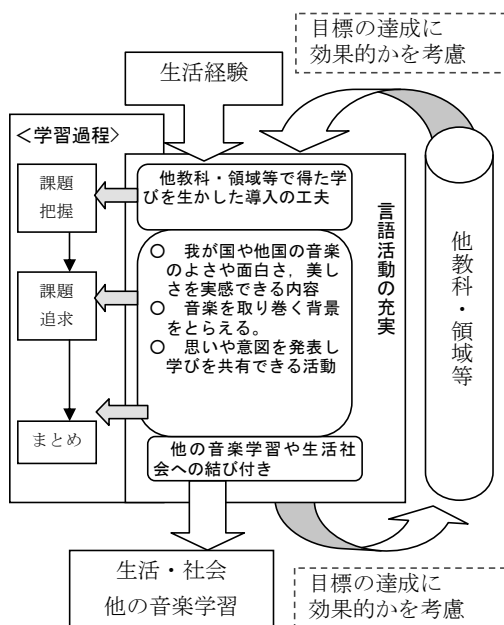


図1 学習指導と他教科領域等、生活・社会のかかわり

(2) 音楽に対する考えの深化を図る学習内容設定の考え方

学習内容設定においては、これまでの成果を生かし、我が国と他国との文化を比較し、それぞれのよさを学ぶことができる内容の設定や生活・社会との結び付きを図ることができるように内容の見直しを図ることとした。

しかし、音楽づくりにおいては、課題追求の過程に組み込むことが、特質上難しいため、題材初めの鑑賞教材において組み込んでいくこととし、表現の歌唱・器楽、鑑賞の領域については、学習過程の課題追求において学習内容を組み込んでいくこととする。

○ 表現、歌唱・器楽の領域における学習内容設定や見直し

- ・ 他国の文化についても幅広くとらえ、音楽を形づくっている要素に着目し、音楽のよさを実感し、表現の工夫につなげることができる内容設定を行う。

＜例＞第2学年 教材「かくれんぼ」

付加する内容

異なる文化をもつ他国でも生活とのつながりがあることを感じ取ることができるように、楽曲「口ぶえふいて」を組み込む。

※ 楽曲中に楽しく遊ぶ外国の様子が出てくるため、自分たちの遊ぶ様子等と比べることができるような学習内容の設定を行う。

- ・ 他国の楽曲で日本の生活において親しまれているもののよさを実感し、さらに、表現の工夫につなげることができる内容設定を行う。

＜例＞第6学年

教材「パッヘルベルのカノン」

付加する内容

同じ和音進行の繰り返しやゆったりとした旋律で落ち着いた曲想を醸し出していることと生活の場面によく使われることを結び付けてとらえられるように、課題追求の過程に組み込んでいく。

※ 生活の場面と曲想と関連を音楽を形づくっている要素をもとに結び付けられるようにする。

○ 音楽づくりの領域における学習内容設定や見直し

- ・ 他教科等との関連を図り、生活の中にある音を意識することができるとともに音楽づくりの楽しさを味わうことができる内容の設定をする。

＜例＞第2学年

題材「たんけんでみつけた音を音楽で表そう」

付加する内容（新しく設定した題材）

生活科において諸感覚で感じたものの様子や音を基にして、音楽づくりをすることができるように、課題把握の過程に組み込んでいく。

生活科において探検をしている時の様子をビデオ撮影しておき、音楽の学習時に音声のみや映像有りの状態で提示し、生活の中にある音に着目できるようにするとともに、音楽づくりの活動の楽しさを実感することができる内容設定を行う。

○ 鑑賞領域における学習内容設定や見直し

- ・ 音楽をとりまく背景等を幅広くとらえることで、感じ方や考え方の質を向上させる内容設定を行う。

＜例1＞第5学年

教材「ハンガリー舞曲第5番」

付加する内容

ヨーロッパの移動民族の音楽に魅了されたブラームスが編曲し作成したものであることから、民族を越え、人を魅了する音楽のよさをとらえることができるように、課題追求の過程に組み込んでいく。

- ・ 美しい旋律をもち、曲想の変化に富んだ楽曲の背景にあるものとして、基となっている民族音楽のよさにブラームスがひかれて舞曲集を編纂したという経緯をとらえる中で、自分たちはどこにひかれるか等を出し合う。
- ・ 学習内容の振り返りができるようにするとともに感じたことや考えたことが共有できるように、学習過程のまとめにおいて、次年度への同学年に紹介文を書いたり作曲者宛の手紙を書いたりする。

(3) 音楽に対する考えの深化を図る指導方法の考え方

指導方法については、音楽の授業を通して言語活動の充実重点をおくとともに、学びの総合化を図るために、子どもの学びが連続・発展するように改善を図っていく。具体的には、学習過程や教師の働きかけ、学習活動、学習形態や場の設定についてそれぞれを表のように進めていく。

表1 音楽に対する考えの深化を図る指導方法の考え方

教師の働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習過程や学習活動、形態や場の工夫も含め指導方法改善の柱として言語活動の充実を図り、子どもが思考の道筋を明確にすることができるように発問を工夫する。その際、子どもが音楽を形づくっている要素を基にして活動が進められる発問になるようにする。 ○ 自分にはない感じ方や考え方のよさに気づき、音楽に対する考えの深化を図るために、異なる感じ方や考え方についての意見の取り上げ方や発問、板書の工夫をする。
学習過程	<p>導入では、生活や経験との関連を図る発問や他教科等での子どもの学びを生かす資料提示を行い、終末では、同一教科内や他教科等、生活・社会へのつながりを意識させる働きかけを行う。</p>
学習活動	<p>感じ方や考え方の質を向上させるために、感じ取ったことを言葉だけでなく、演奏や体の動き、色や形等で表す学習活動を取り入れる。表現の理由についてグループや個人で音楽を形づくっている要素を基に説明しながら確かめられるようにする。</p>
学習形態や場の設定	<p>それぞれが、楽曲や友だちの発表を鑑賞する際に着目する音楽を形づくっている要素などでまとめるなど、共通点のある集団での鑑賞ができるような形態や場の設定を行う。</p>

領域ごとの学習過程における指導方法について、表現の領域では、再創造を行う歌唱・器楽と原創造を行う音楽づくりに分け、表現・鑑賞の領域を以下のようにパターン化し、音楽に対する考えの深化を図っていくこととした。

○ 表現、歌唱・器楽における音楽に対する考えの深化を図る指導方法

過程	指導方法例
課題把握	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの学習や生活経験の中から関係のあることはないか挙げさせる。 ○ 音楽を形づくっている要素を基にして音楽表現に取り組むことができる発問をする。 <p>発問「この曲のよさを生かして演奏するには、どんなことに気を付けながら表現したらいいかな。」</p>
課題追求	<ul style="list-style-type: none"> ○ 気付いたことを基に活動を通して解決していきたいことはないか問いかける。また、追求の材料として、資料の提示を行う。 <p>提示資料 音楽を取り巻く背景や関連のある教材</p> <p>発問「この曲は〇〇の時によく使われているけれど、その感じは出ているかな。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 課題ごとにまとめて活動できるよう場の設定を行う。 <p>場の設定 課題別グループにより、音楽を形づくっている要素に着目させる。</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習のまとめで、生活・社会や次の音楽学習へのつながりについて発問する。 <p>発問「学習したこの曲をどんな時に演奏してみたいかな。」</p> <p>場の設定 相互に鑑賞・発表し合う中に要素を取り入れて発表させる。</p>

○ 表現・音楽づくりにおける音楽に対する考えの深化を図る指導方法

過程	指導方法例
課題把握	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの学習や生活経験の中から関係のあることではないか挙げさせる。 ○ テーマと音楽を形づくっている要素とを結び付けて活動の確認をできるようにする。 ○ 振り返りながら表現できるようにグループやペア等の学習形態で確認できるようにする。
課題追求	<ul style="list-style-type: none"> ○ 追求の材料として、資料の提示を行う。 <p>提示資料 そのものの様子や参考となる楽曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ イメージと表現を合わせるために音楽の要素に考えられるよう発問する。 <p>発問 「その様子に合うようにするには、速さはどれくらいにするのかな。」</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同じテーマや同じ楽器等で集まり、確かめ合う場の設定を行う。 ○ 音楽を鑑賞する場面を設けたり、工夫してよくなったところの発表をさせ、音楽に対する考えの深まりを実感させる。 ○ 次の学習や次の学年での学習を提示し、つながりを意識できるようにする。



○ 鑑賞における音楽に対する考えの深化を図る指導方法

過程	指導方法例
課題把握	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの学習やこれまでの生活経験の中から関係のあることの振り返りをさせる。 ○ 特徴のある要素を基に楽曲の追求していきたいところを焦点化する。 <p>発問 「この曲のどんな特徴に気を付けながら聴いていきたいかな。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 気付いたことを基にした活動から解決していきたいことはないか問いかける。また、追求の材料として、資料の提示を行う。
課題追求	<p>提示資料 音楽を取り巻く背景や関連のある教材</p> <p>発問 「この曲はよく、〇〇の時に使われているけれど、なぜだと思う。」 「〇〇の人たちは、どんなところにこの曲のよさを感じたのかな。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 課題ごとにまとまって活動できるよう場の設定を行う。 <p>場の設定 課題ごとに鑑賞できるように、グループごとに聴く場を設定する。</p> <p>発問 「このグループでは、特にどんなことに注意して聴いていくのかな。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 音楽に対する考えを様々な方法で表現する学習活動を取り入れる。その際、音楽を形づくっている要素を結び付けてグループで話し合ったり確認しあったりする。 <p>発問 「曲の仕組みや特徴から考えるとどんな表現がいいかな。」 「仕組みや特徴にあった表現になっているかな。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 音楽を形づくっている要素を基にして聴くことができていない場合、一斉指導に切り替えたりグループへの問いかけをし、要素を基にした活動が展開されるようにする。 <p>発問 「このグループでは、速さについてどんな意見がでているのかな。」 「曲のつくりの中で変化しているところはどやって表そうとしているのかな。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 楽曲全体を鑑賞する場面を設け、考えの深まりを実感させる。 ○ 学習のまとめの中で、生活・社会や次の音楽学習へのつながりについて発問する。 <p>発問 「この曲をどんな時に聴きたいかな。」 「同じような特徴、仕組みをもつ曲は他にないかな。」</p>
まとめ	

IV 研究の実践

ここでは、音楽に対する考えの深化を図るために、鑑賞領域の授業実践を行う。

これまでの鑑賞の授業においては、活動が固定化していたり、歌唱・器楽・音楽づくりのように具体的に見える成果を確認しにくい側面があったりしたため、子ども自身が学ぶ価値や必要感を十分に味わっていないのが現状である。そこで、「音楽を形づくっている要素」を中心に聴き、思考・判断する活動を通して音楽に対する考えの深化を図るような学習内容や指導方法に見直していく。そして、学習内容や指導方法が有効であったかを以下の視点や方法で子どもの姿から見取り、検証していく。

① 実践の視点

ア 音楽に対する考えの深化を図る学習内容の見直し

イ 音楽に対する考えの深化を図る指導方法の工夫

② 実践の評価と見取る方法

ア 学習内容の設定によって、音楽に対する考えが深まったか。(学習内容)

イ 指導方法によって、音楽に対する考えが深まったか。

- ・ 自己評価、発言、行動、質問紙等

＜第4学年題材「ふしの感じを生かしてⅡ」における実践＞

(1) 題材の目標

- 旋律の特徴や曲の構成に関心をもち、自分の表現をふり返りながら進んで活動に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- 旋律の特徴と曲の構成とを関係付けて、表現の工夫ができる。(音楽のつくりかたを学ぶ力)
- 旋律の感じの違いや曲の構成を感じ取って表現することができる。

(2) 音楽に対する考えの深化を図る学習指導

これまでの授業では、本題材では以下のような成果と課題が見られていた。

- 楽曲の特徴や仕組みについて聴き取ることができる。
- 楽曲の部分的な聴取にとどまり、音楽全体を味わって聴くところまで至らない。
- 表現領域に比べ、子ども自身の「わかる」、「できる」実感が得にくい。

また、学習前の事前調査から、以下のようなデータが得られた。(調査人数38名)

鑑賞の学習のよさはあるか	人数	主な理由
ある	28	・いろいろな音楽が聴けるから ・音楽の要素に気づけるから ・表現に生かせるから
ない・わからない	10	・あるのだろうけどよく分からないから ・なにができたか分からないから ・表現の方が好きだから

そこで、本題材では、音楽に対する考えを深めるために、以下のように学習内容と指導方法を見直す。


ア 音楽に対する考えの深化を図る学習内容の見直し

- 音楽を取り巻く背景と音楽を形づくっている要素とを関連付け、幅広く音楽を感じ取れるような学習内容

イ 音楽に対する考えの深化を図る指導方法の工夫

- 音楽に対する考えを共有するための多様な言語活動の設定
 - ・ 聴いて感じ取ったことを、言葉や体の動き等、視覚化して表現する活動
 - ・ 聴いて感じ取ったことを整理、紹介、意見交換する活動

(3) 授業の実際 (6・7 / 7時間)

過程	主な学習活動	子どもの音楽に対する考え	考え	発問	留意点
課題把握	1 「剣の舞」を鑑賞し、感じたことや気付いたことを話し合う。 2 学習のめあてを話し合う。 ふしの感じに気を付けてきこう。	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な曲 ・走っているみたい ・途中はおとなしい ・にぎやか ・力強い ・ふしぎ 	<ul style="list-style-type: none"> ・細かいリズム (リズム) ・音が小さくなる (強弱) ・たくさんの音が同時に鳴っている (音の重なり) ・途中のふしが違う (音階) 	これから聴く曲はどんな感じがするでしょう。	全体を感じ取って聴く。
	3 曲の特徴や仕組みを捉える。 【特徴】 ○ 旋律の違い ○ 強弱の変化 ○ 金管楽器と木管楽器の音色の違い 等 【仕組み】 ○ 3つの部分に分かれる。 ○ 変化や繰り返し 【その他の要素】 ○ 劇の進行と曲のかかわり ○ 作曲時のエピソード	<p>最初と最後は似ているけど、真ん中の部分は流れるようなふしだね。</p> <p>ふしだけでなく低音や打楽器のリズムの大きさも変わっている。表している場面が違いそうだ。</p> <p>めあての設定</p> <p>どうして「剣の舞」という題名が付いているのかな。</p> <p>真ん中の部分のふしは、日本のふしとは違うぞ。</p> <p>音楽を取り巻く背景と関連付ける。</p> <p>もっとくわしく聴いてみたいな。</p>	<p>この曲がどんな構成になっているか考えながら聴きましょう。</p> <p>短い前奏に加え、「激しい部分」「ゆったりした部分」「激しい部分」という構成(つまり、旋律の繰り返しと変化)が分かれればよい。</p> <p>この曲の題名は「剣の舞」といいます。どんな様子を表しているでしょう。</p> <p>題名についての問いかけのタイミングはよく検討し、「音楽の要素」と結び付けていけるようにする。</p> <p>今度は、聴いて感じ取ったことをいろいろな方法で表してみましょう。</p> <p>相手にも分かるように視覚化して表現させることで音楽の要素の働きを確かめることがねらいとなる。</p> <p>その色や形は音楽のどんなところを表しているの？</p> <p>子どもの表現と音楽の要素を関連づけるような問いかけをし、明確な意味をもたせるようにする。</p> <p>自分だけの感想に終わらせず、全体で考えを整理したり、紹介・意見交換を行わせたりすることで、相手意識をもち、学ぶ価値を実感させ、意欲化につなげられるようにする。</p>		
課題追求	4 様々な表現方法で、曲の気分を感じ取る。 ○ 動きで表す ○ 物語を作る ○ 色形で表す ○ 言葉で表す ○ 音で表す	<p>今この部分をもう一度聴いてみよう。</p> <p>同じふしが繰り返して出てくるけど、音の大きさが違うよ。2回目は大きな動きにしよう。</p>	<p>(学習活動・形態) 音楽に対する考えをより深めるために、感じ取ったことを表現する活動を取り入れる。</p> <p>(場の設定) 集中して繰り返し聴けるようにCDやラジカセをグループごとに準備する。</p>		
	5 互いの表現を交流し、曲全体を聴く。 	<p>くねくねした動きが中間部のなめらかなふしに合っているな。</p> <p>音楽も、動きで表すと、見て分かるから、曲の構成もわかりやすいな。</p>	<p>同じふしは同じ色で表そう。似ているところは赤と桃色で表そうかな。</p> <p>音楽も、動きで表すと、見て分かるから、曲の構成もわかりやすいな。</p>		
まとめ	6 学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に聴いたときより、いろいろな特徴や仕組みに気付くことができた。(考えの深まり) ・他の方法でも表現してみたいな (次への意欲) 			

(4) 実践の考察

本題材の実践を通して、次のようなことが明らかになった。

- 鑑賞において、従来の言葉による考えの表出だけでなく、身体の動きや図、絵、話作り等、多様な表現方法で活動させたことで、子どもたちの工夫が凝らされ、音楽の特徴を音楽の中から見つけ出し、感じ取ることができていた。また、互いの表現を交流させることで、互いの音楽に対する考えのよさや面白さを知ることにつながり、楽曲をより味わって楽しむ姿が見られた。さらに、相手意識をもたせたまとめ方をするすることで、自分の音楽に対する考えの深まりを実感でき、次の学習への意欲にもつながった。

【主な参考文献】

- 文部科学省「小学校学習指導要領解説 音楽編」(教育芸術社 平成20年)
- 金本正武・坪能由紀子編著「小学校新学習指導要領ポイントと授業づくり」(東洋館出版社 平成21年)
- 島崎篤子・加藤富美子著「授業のための日本の音楽世界の音楽」(音楽之友社 平成11年)
- 佐藤日呂志・坪能由紀子編著「小学校教育課程講座 音楽」(ぎょうせい 平成21年)

V 研究の成果と課題

1 研究の成果

- 子どもが音楽との豊かなかかわりを求め続けるために、音楽に対する考えの深化を図る学習内容設定の考え方を再構築し、具体的な指導方法を明らかにすることができた。そのことで、学んだことを他の音楽学習につなげようとしたり、生活・社会とのかかわりをさらに求めていこうとしたりする子どもの姿が見られるようになった。
- 音楽に対する考えの深化を図る学習指導により、音楽を豊かに感受するための感覚や知識、技能の習得が図られ、学ぶ意欲や価値の実感につながった。
- 表現・鑑賞のすべての領域についての学習指導を研究することができ、新学習指導要領全面実施に向けた授業づくりの指針ができた。

2 研究の課題

- 子どもの学習経験の積み重ねと、音楽に対する考えの深まりを今後も継続的に見取り、よりよい学習指導をしていく必要がある。
- 新授業プランを実施する中で、評価・改善していく必要がある。